

1、はじめに

来年度から中学校の新指導要領が全面実施されます。その中に、中学校1・2年(男女とも)に武道が必修化されます。柔道・剣道・相撲の3種目から1種目を選択し、授業をすることになります。ケガの危険性も高くなるために、いろいろな不安も指摘されています。

そこで、高知県内では現時点でどのような種目が選択されているのか、校長先生はどのように考えておられるのか、準備などで問題点はないかなどを「武道必修化に関するアンケート」として子どもと教育を守る高知県連絡会(以下、子連)が調査しています。現在の所、110校を超える中学校がある中で、私立も含め60校から回答が寄せられているそうです。

子連から情報提供をいただき、ここにそのアンケート集計結果をお知らせいたします。

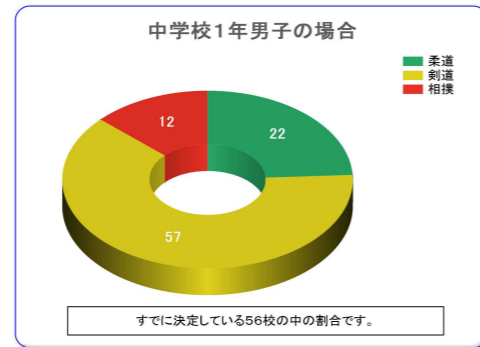
2、選択種目

選択種目は、数値(%)で言えば、次のようになります。

学年・男女によって決定校数に差があります。その関係で、三つの合計をしても100%にはなりません。

<必修>

%	柔道	剣道	相撲
中1男子	22	57	12
中1女子	20	62	8
中2男子	17	58	12
中2女子	20	58	8



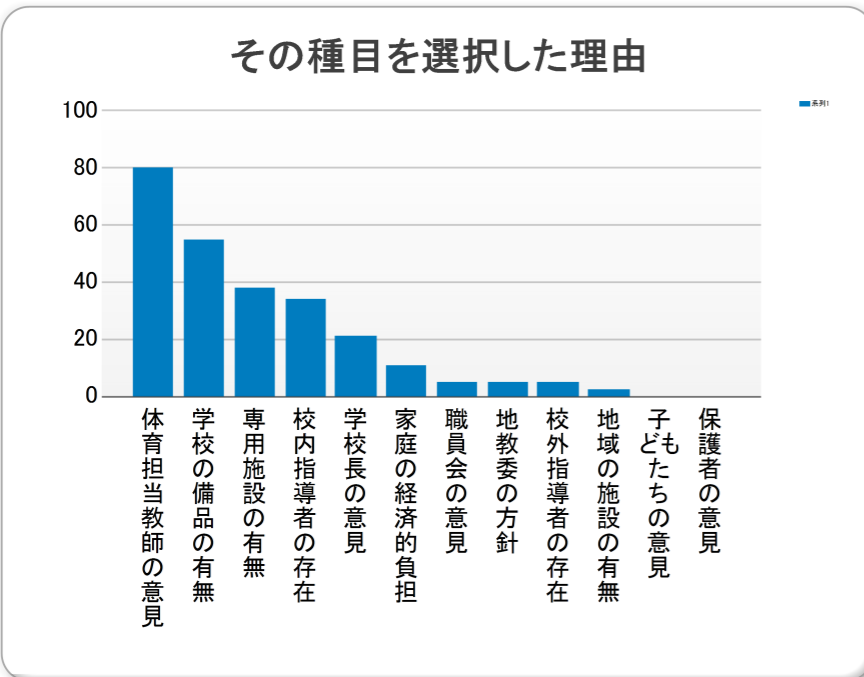
<選択>ダンスも含めた4種目の中から選択

中3男子	12	42	12
中3女子	13	43	8

全県的には剣道が多いのですが、高知市だけは相撲が過半数を超える状態になっています。

3、選択理由

選択した理由(複数回答)は、以下の通りです。



武道必修化アンケート集計結果から

気になるのは、「体育担当教師の意見」という回答の多さです。来年度に向けて準備をしている今は、現在学校にいるその教師の意見でいいのでしょうか。体育の先生も当然、学校の設備などを考えて選択していることでしょうか。その選択は現在の学校にとっては妥当なものとは言えるのかも知れません。

でも、学校長の心配事のいくつかの回答の中に「今なら専門の教師がいるので」というような記述が見られ

ました。何年かすれば、その教師も異動します。例えば、現在の教師の意見で柔道で備品なども準備をしていたのに、異動で剣道の経験者が来たというような場合、どうするのでしょうか。備品を一から揃え直すことは(異動が3月末であることを考えると)予算的にも4月からの新年度には不可能でしょうし、次年度以降も簡単ではないのではないのでしょうか。結局、今ある備品を使う種目を実施するという選択をせざるを得ず、せっかくの専門的な知識が生かされないままになってしまう可能性もあると思います。学校単独では道具を揃えることが出来ないため、地教委で備品を揃える所が多いですが、何年かすると補修や買い換えなども必要ですし、保管中又は使用中の衛生管理も必要です。そうした継続的な予算についても心配されます。

4、学校長の心配や困ったこと

学校長としての心配や困ったことも聞きました。記述式でしたので、何らかの具体的な記述を記入して下さった校長先生は35人でした。

その中で、「ケガ・安全」をあげられていたのが14名、「指導者の存在」を指摘していたのは15名。「道具の不足」は6名、その道具の「維持・衛生」と「学校設備」を指摘していたのが3名ずつ。学校らしいと思ったのは、「授業外での子どもの行動」を指摘していた方が1名いたことです。

以下、いくつかの声をご紹介します。

- ★「専門の指導者がいても他の球技などより事故の危険性が高いため、中途半端な指導や授業外(授業後に生徒同士で遊び半分に行く)でやらないことなどの指導を徹底させる必要があることなどを心配します。」
- ★「本年度体育担当者が武道未経験であり、各種研修会へ積極的に参加し、研修を深めている。しかし、安全確保をしながら体育授業を進めて行くには、内容を精選して行うことが必要になってくる。」
- ★「生涯スポーツの基礎としての中学校体育での武道の実施と言っても、将来果たしてどれくらいの生徒が武道をやっているかどうか見通せない。」

5、地教委に要望したこと・したいこと

地教委に要望したことでは、「道具・設備」をあげたのが25名。「予算」が10名ですから、教委に対しては、とにかく準備をして欲しいということだと思います。

加えて、「教員の研修」と「指導者の配置」が3名ずつ。地教委で購入した道具を管内の何校かで使い回すことが想定されているので、「衛生」や「保管などのシステム」を指摘された人もいます。

以下、いくつかの声をご紹介します。

- ★「指導者の配置、外部指導者などの派遣。やりたくても十分な対応が出来る指導者がいない。保護者負担が大きくなる。また、学校間格差が出るので、予算的な対応をお願いします。」
- ★「武道必修化に伴う予算措置と武道の備品について各学校に何がいくつあるかという状況を共有できる情報把握。(相互に貸し借りできるシステム作り)」
- ★「場所や道具などの環境整備(これは安全面も考えて)。指導者が外部から来てもらえる仕組みをしっかりと整備して欲しい(これも安全面も含めて)」
- ★「教員の武道研修の機会の提供」

6、まとめ

種目決定の理由に、県教委が「教育課程決定の前には聞くべきだ」(9/12子連との交渉)と言っていた子どもたちの意見や、職員会などできちんと討議したことをあげている学校は少なかったです。数ある教科の中の一つである体育で年間10時間程度扱う教材である=学校全体からすればそれほど大きな課題とは位置づけていないのが、現実かも知れません。

しかし、来年度からの種目の案を聞いて「それはやりたくない」と言っている子どもたちも少なからずいます。それは、特に「女子の相撲」などで多く見られます。ケガの危険性も指摘されています。

武道は、「技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技ができるようにする。また、武道の学習に積極的に取り組み、伝統的な行動の仕方を守ることなどに意欲を持ち、健康や安全に気を配るとともに、礼に代表される伝統的な考え方を理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにすることが大切である」(文科省『中学校学習指導要領解説・保健体育編』p99より)とされています。

子連と県教委の交渉の中で、県教委担当者は「試合をするまでには至らないので、(ケガの)心配は少ない」という旨の答えをしていましたが、指導要領には「攻防を展開する」と書かれています。これは、試合形式的な授業も前提にした表記であり、事実、解説文には「勝敗を競い合う運動」であることが明記されています。どのような授業が展開されていくのか、本アンケートで校長さんが指摘された様々な懸念・心配はこれから続くことと思われます。

これからも注視が必要であると思われます。

子連事務局より、アンケートのお礼
 このたびは、お忙しい中私たちのアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。上記の様な結果になりましたので、ご報告させていただきます。どうもありがとうございました。

2月5日(日)午後
アンケート結果なども含め、県立大学で集会を計画中です。
 詳細は、後日お知らせします。